

# RKU Today

流通経済大学広報誌

AUTUMN / WINTER 2015-2016

流通経済大学創立 50 周年



流通経済大学

vol.32

04 流通経済大学創立50周年

流通経済大学創立50周年記念祝賀会 挙行

野尻俊明学長 挨拶

岡部正彦理事長 挨拶

ベイラ・インテリオール大学

アントニオ・フィダルゴ学長 祝辞

流通経済大学50周年記念事業募金に  
ご協力いただいた皆様

流通経済大学50周年記念  
ホームカミングデー 開催



50th ANNIV.

12 Close Up!

流通経済大学

[教職員紹介]

14 【OB/OG訪問】立川が聞く。

取材：立川和美（社会学部教授）

本田隆人さん（2002年3月卒業・上海上組物流有限公司総経理）

16 付属柏高等学校ニュース

付属柏高校創立30周年記念式典・祝賀会

18

NEWS & TOPICS

流通情報学部開設20年記念パーティー／第50回つくばね祭  
2015年度 読書コメント大賞年間大賞決定／クリスマスコンサート／交換留学生修了式

ひとつひとつ積み上げてきた50年。  
これからまた新たな50年が始まる。  
多くの学生が集った50年であり、  
教職員もその数は少なくない。  
全員で築いた50年の歴史である。  
そしてこれからまた50年が始まるのだ。

# 流通経済大学創立50周年記念祝賀会 挙行

2015年11月13日

帝国ホテル「富士の間」



岡部正彦 日通学園理事長



野尻俊明 流通経済大学学長



佐藤克實 流通経済大学校友会会長



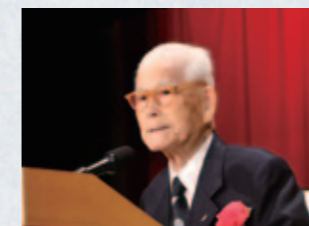
渡邊健二 日本通運株式会社代表取締役社長



中山一生 茨城県龍ヶ崎市長



松浪健四郎 全国体育スポーツ系大学協議会会長



奥野誠亮 日通学園理事



楠田幹人 茨城県副知事



アントニオ・フィdalgo ベイラインテリオル大学学長



鎌田薫 日本私立大学連盟副会長

**褒章**  
黄綬褒章

**三嶋隆夫**  
本学第1期卒業生・  
フランス菓子店「16区」  
(福岡市)オーナーシェフ

**山田安志**  
流通情報学部3年在学中・  
人命救助  
(今年度全受賞者の最年少)

**叙勲**  
旭日重光章

**岡部正彦**  
日通学園理事長・  
日本通運株式会社相談役

11月13日、帝国ホテル「富士の間」において、創立50周年記念祝賀会を挙行し、大学や高等学校、企業関係者等700名を超える来場者をお迎えしました。

開式に続き、野尻俊明学長・岡部正彦理事長が挨拶を述べ、引き続きご来賓の方々からご祝辞をいただきました。

その後、ご来賓および海外の学術交流協定校の学長等が、揃いの法被姿で登壇し、華やかに鏡割りが行われました。続く乾杯では、文部大臣・法務大臣を歴任した奥野誠亮本学園理事が高らかに「乾杯！」を発し、参加者は杯を交わし50周年を祝しました。

また奇しくもこの日に、秋の叙勲・褒賞を受けた3名の列席者が紹介され、会場からは万雷の拍手が送られました。

歓談を挟んで記念ビデオの上映や各方面からの祝電が披露され、目出度くお開きとなりました。

## 創立五〇周年記念祝賀会 学長挨拶

学長 野尻俊明

学校法人日通学園流通経済大学は、今年創立50周年を迎えることができました。

わが国には100年以上の長い歴史を有する大学が多々ある中、50年という歴史は決して長いものではありません。しかし、この50年の年月は現旧の教職員、卒業生をはじめとする本学関係者にとりましては、何物にも代えがたい貴重な日々積み重ねであり、かくも大勢の皆様をお迎えして祝賀の会を開催できることは関係者一同喜びにたえません。

本日は、一般社団法人日本私立大学連盟副会長早稲田大学総長の鎌田薫先生をはじめ、皆様には大変ご多忙中にも関わらず、国内各地のみならず海外からも多数の会にお越しいただき、心より御礼を申し上げます。また、常日頃皆様からいただいております本学への種々のご指導とご支援に対し、改めて感謝を申し上げます。

ご案内の通り、本学が創設されました1965年当時は、わが国経済は高度成長のただ中にあり、本格的な大量生産、大量消費の時代の到来が予想され、既存の流通システムの限界、課題が明確になった時期でありました。「流通革命」や「輸送革新」といった新しい言葉が世に登場し、流通に関する科学的研究や専門家の育成が社会的に急務とされておりました。

こうした社会の強い要請にこたえるべく、日本通運株式会社においては当時の経営者により学校法人及び大学の設置が計画された。本学は、当時としては大変珍しい日本通運株式会社という企業の出捐によって設立された大学であります。その背景には社会や産業界からの強い要望があったという事実があります。さて、本学の創設にあたり掲げられた建学の理念は、経済なかんづく流通経済の研究と教育により、高い教養と知見をもった専門的人材を育成するとともに、広く社会の福祉に貢献できるゆたかな教養をもった人材を送り出すことにある、とされました。今日、本学は就職に強い大学として、各方面から過分のご評価をいただいておりますが、これも創設の経緯、理念に基づき、教養教育を基礎として空理空論を語らない実学主義に基づいた教育、

弱小大学として多くの苦難に直面し、その度ごとに教職員が一致団結して局面を打開してきた歴史があります。今日からみますと、学園の財政的基盤が何とか確立して、新規の展開ができる体制が整ったのは創設後15年ほどたった、1980年前後のことでありました。現在、日通学園学園長をお務めいただいております佐伯弘治先生は、開学以来一貫して苦難打開の先頭に立ち、大学の将来のあるべき姿を具体的に描きながら、発展に尽くしてこられました。個人的な感想を申し上げ恐縮とは存じますが、佐伯弘治先生なくして今日の流通経済大学の姿は考えられない、というのが私の偽らざる気持ちであります。おそらく、教職員の多くも同様の感慨を持つているものと思います。残念ながら、佐伯学園長には本日ご都合が悪く、この会場にお越しいただくことができませんでしたが、おそらく誰よりも強く今日のこの日を喜んでおられることと思います。

また、佐伯先生は将来のわが国の国際化、グローバル化を見越して、早い時期から海外の大学等との交流を極めて積極的に展開されました。本日この会場に本学の海外提携校の代表の皆様においでいただいておりますが、

さらには社会、産業のニーズに合った人材の育成を継続してきた結果と考えております。この建学の理念に基づく教養豊かな実業人の育成という教育の方針は、今後も変わることなく続けていく所存であります。

本学の第一回目の入学式は1965年4月17日に、経済学部経済学科に241名の新生を迎えて行われました。当初は経済学部経済学科の単科大学としてスタートした本学も、現在では経済、社会、流通情報、法学、スポーツ健康科学の5学部8学科、さらには5大学院研究科を擁する社会科学系を中心とする中規模総合大学に発展することができました。また、卒業生の数も3万7000人を超えております。施設等の面でも、1985年に千葉県柏市に流通経済大学付属柏高等学校を設置したほか、2004年には千葉県松戸市に新松戸キャンパスを開設してツーキャンパス体制となっております。新松戸キャンパスの開設に際しましては、わが国ではじめてのキャンパス選択制を導入し、多くの教育関係者から注目を集めております。これは、学生自らが自分の学ぶキャンパスを選択することができるシステムで、大学では両キャンパスに基本的に同

その中には本学で研究を積み重ねた後本国に戻り、大学教員の道を歩んで後進の指導に尽くされていく方々がおられます。現在流通経済大学には、世界12ヶ国からの留学生在が在学しておりますが、今後も諸外国との交流を深め、多様な留学生を受け入れ、また日本人学生の海外での学習の機会を増加させ、国際的に活躍する人材を育成し、国際社会の永い平和に教育面から貢献したいと考えております。

ところで、皆様ご承知の通りわが国社会は少子・高齢化が進み、それに伴い高等教育機関もすでに深刻な影響を受けております。幸い本学は、皆様方のご支援により今日を迎えることができましたが、今後の展開に思いを致すとき緊張感で身が引き締まります。創立50年を機に、全教職員が同じ思いを共有しながら、全学あげて教学改革に取り組み、社会や学生のニーズに対応した教育内容の二層の充実を図り、次の50年を目指す決意をいたしております。

最後になりましたが、皆様これまで以上のご指導とご支援を心からお願ひして、ご挨拶とさせていただきます。

## 創立五〇周年記念祝賀会 理事長挨拶

理事長 岡部正彦

ただ今ご紹介いただきました、学校法人日通学園理事長の岡部でございます。

皆様には大変ご多忙中にも関わりますが、流通経済大学創立50周年記念祝賀会にお越しいただき、誠にありがとうございます。学校法人日通学園を代表して、心より厚く御礼を申し上げます。

さて、本学が開学いたしました1965年当時、私は日本通運に入社して5年目を迎えた若手社員の一人として貨物輸送の現場第二線で働いておりました。貨物輸送が鉄道輸送全盛の時代にあつた当時の現場では、経済発展による貨物量の急増、輸送力不足、それに伴う駅頭での滞貨の発生、そして大量の貨物をほとんどすべて人力に頼る過酷な荷役作業などの実態がありそれらを目の当たりにして、私は貨物輸送の合理化の必要を痛感しておりました。また当時は、かの有名なビーター・F・ドラッカー博士の「流通は経済の暗黒大陸」という名言が一世を風靡して、流通とりわけ物物的流通分野への学

問的アプローチの必要が広く問われ始めた時期でもありました。こうした折、日本通運が主導してわが国で初めての輸送、流通に関する専門的な高等教育、研究機関を創設するという話を、内心胸を躍らせ大きな期待を持って聞いた記憶がございます。

こうして半世紀の時がたち、私自身が学校法人の責任ある立場に就いてみて、改めて日本通運の先輩諸兄の英断と実行力に敬意を表する次第であります。近年では多くの企業が、CSRの二環として社会貢献等の活動を活発化させておりますが、流通経済大学の創設はまさにその先鞭をつけたものと言っても過言ではないと思います。

開学以来50年、流通経済大学は当初の流通、物流の教育、研究機関という枠を超え、現在では経済、経営、社会、国際観光、流通情報、法学、スポーツ健康科学と、社会科学系を中心とした中規模総合大学に発展することができました。キャンパスも元々の茨城県龍ヶ崎市に加えて、2004年には千葉県松戸市に第二のキャンパスを設置しております。また、30年前の1985年には千葉県柏市に流通経済大学付属柏高等学校を開校し、お陰様でこちらも順調に発展させ

化が進み、激しい競争が始められております。すでに学内においてはかなり以前から教員、職員の皆さんが心を二つにして、今後を見据えての改革に取り組んでいたいておりますので、大変心強く思っておりますが、さらに層の努力が必要であります。

そうした中で、流通経済大学が引き続き次代を担う人材の育成を図るためにやらねばならないことは、教育機関の基本である教育、指導内容の充実、強化に尽きると思います。日本を取り巻く世界の社会、経済環境は刻々と変化し続けております。当然のことながら、社会の変化とともに大学に対する社会の期待の内容も変化してきております。流通経済大学は今後も社会のニーズに的確に応えながら、建学の理念に基づいたさらに空理空論を語ることなく、少人数による実学主義とリベラルアーツを重視した教育を行い、健全な心と身体を持った人材を育成した社会に送り出していく覚悟であります。

最後になりましたが、改めて皆様方の長きにわたるご支援に感謝、御礼申し上げますとともに、今後とも本学に対するなお二層のご指導、ご鞭撻をお願いして、ご挨拶とさせていただきます。



本学の50周年記念式典には、本学と学術交流協定を結ぶ海外の諸大学のうち、中華人民共和国、台湾、アメリカ合衆国、そしてポルトガルから、合計7つの大学が、それぞれ代表を派遣しました。

ポルトガルのベイラ・インテリオール大学 (Universidade da Beira Interior) からは  
アントニオ・フィダルゴ学長が来日、主賓のひとりとして祝辞を述べました。

ここに、祝辞の和訳と、そのポルトガル語原稿を掲載します。

### 流通経済大学創立50周年に寄せるベイラ・インテリオール大学学長の祝辞

Discurso de Felicitação para o 50º Aniversário da Universidade Ryutsu Keizai

アントニオ・フィダルゴ (António Fidalgo, Reitor da Universidade da Beira Interior) 日笠 博司訳 (Tradução japonesa por Hino Hiroshi)

Gaudeamus igitur! (ガウデアームス・イギトゥル!)

流通経済大学創立50周年の記念式典に際し、この佳き日とともに<sup>こよひ</sup>壽ぎましょう。

このたび訪日を果たしたのは、貴学と学術交流協定を締結している諸大学 (中華人民共和国・台湾・アメリカ合衆国・ポルトガル共和国) の代表であります。私どもの目的はふたつ。ひとつは、貴学の50年にわたる、教育・研究への真摯な取り組みに敬意を表するため。いまひとつは、知恵と教養と進歩に資する、貴学の実績を、今後とも末永く積み上げてゆかれますように、とのメッセージをお伝えするためであります。

流通経済大学に、幸あれ。

叡智の普遍性を自覚し、世界で成就される学術の新知見を吸収しようとする好奇心を保つ——。大学を大学たらしめる存在理由は、まさにこれでした。あらゆる学的探究は、国境の垣根を超え、文化の違いを超越し、双方向性をもって為される必要があります。教員・学生が一体となって行なう知的な国際交流こそ、死活的に重要であると考え、そのゆえんは上記のことにあります。

今やみずからの殻に閉じこもるだけの大学など、その名に値しません。たとえて言えば、「外」へ向け循環せず一新されもしない空気は、やがて淀む、生氣を失う。それを自覚しているか否か、に大学の真価が問われています。

叡智と学術。それは、私どもへ与えられた普遍的遺産であります。

スコラ哲学の大成者にして13世紀バリエ大学の碩学、聖トマス・アクイナスの金言 bonum diffusivum sui に拠つつ上掲の言葉を解釈すれば、次の如くなります。すなわち、叡智と学術は、その本性により、広められることをみずから望む。そして、それを善用せんと願う万人の共有財産たらんことをみずから望む、と。

私どもが集う本日の式典は、聖トマスの上掲の至言——「善きことは、その本質から、伝播され弘布されることを、みずから望む」——を、よりよく実現してゆくための契機となります。その意味において歴史的な、この区切りの年を祝うため、はるばる遠方から、諸大学の代表を招いた貴学の見識に敬意を表します。

このたびの招待へ謝辞を申し述べます。「日出ずる国」へ私どもを招くにあたり、皆様から賜わった温かいホスピタリティーにも、感謝を捧げます。

中世以来ヨーロッパの諸大学で、ラテン語で、謳い継がれてきた学生歌。祝辞を始めるにあたり示したラテン語—— Gaudeamus igitur (「ゆえに今こそ楽しみぬ」)——は、その冒頭に置かれた一文です。

若き今こそ、	Gaudeamus igitur
いざ愉しめ。	Iuvenes dum sumus.
輝ける青年期も、悩み深き晩年も、	Post iucundam iuvetutem
ともに一炊の夢。疾く過ぎ去りてのち、	Post molestant senectutem
我ら土へ還らんがゆえに。	Nos habebit humus.

中世西欧の学生が、短く、いつ終わるともしれぬ「生」を自覚し、逃れ得ぬ「死」へ想いを馳せたとき、第1スタンザに謳われる死生観は生まれました。

我らが生は短く、	Vita nostra brevis est
その終焉、いとも儚し。	Brevi finiatur.
死は、疾く訪れ、	Venit mors velociter
地上より、我らを奪い去らん。	Rapit nos atrociter
その定め <sup>めら</sup> に抗える者、なし。	Nemini parceret.

この学生歌は、この式典が挙行されている、たとえば、きょうこの一日をあたかも「驚づかみにする」(carpe diem)かの如く濃密に生きること、へのいざないにほかなりません。再び、学生歌の一節——

学問の府に、幸あれ。	Vivat academia!
教授陣に、栄光あれ。	Vivant professores!
学問の府を構成せるひとりひとりに、	Vivat membrum quodlibet;
すべての仲間に、	Vivant membra quaelibet;
永遠の繁栄あれ。	Semper sint in flores.

不可避の死に真摯に向き合うとき、この命をどう生きるか、という課題に迫られます。もちろんそれは各人各様であります。私はやはり、今をさかのぼる2400年前、アリストテレスがみずからのアカデメイアで説いた「知を生きる」という選択肢を、最も気高いものと考えます。世界のいづこにあっても、先達から最良の教えを吸収し、それを次世代へ伝える。同時に、森羅万象の神秘に探究の<sup>くわ</sup>のめりを入れる、という<sup>こみち</sup>のこみちを歩み、人類が積み上げてきた叡智の遺産へ、豊穡の貢献を一点積み増す——。そんな選択肢です。学生歌『ガウデアームス・イギトゥル』から最後の2スタンザを引きつつ、私の祝辞を終えます。

我らが団結よ、永遠なれ。	Vivat nostra societas,	我らを薫陶し、	Alma Mater floreat,
博雅・好学の土に、幸多かれ。	Vivat studiosi;	かつは遠近に散らばれる	Quae nos educavit;
ひたすら真理のみ興隆し、	Crescat una veritas	知友・同志をば	Caros et commilitones,
きょうだいの如き連帯と、	Floreat fraternitas	その懐へ招き寄せし	Dissitas in regiones
祖国の繁栄が、いや増さんことを。	Patriae prosperitas.	アルマ・マター*に、栄光あれ。*母校	Sparsos, congregavit.

いざ、流通経済大学！ この学び舎が、知識と、学問と、平和の、変わらぬ花園でありますように。

### Discurso de Felicitação para o 50º Aniversário da Universidade Ryutsu Keizai

António Fidalgo (Reitor da Universidade da Beira Interior)

“Gaudeamus igitur”.

Alegremo-nos pois pelo 50º aniversário da Universidade Ryutsu Keizai. As universidades de outras partes do mundo, dos Estados Unidos, da Europa e da Ásia, vêm ao País do Sol Nascente para juntas celebrarem os 50 anos de dedicação ao ensino e à investigação da universidade anfitriã e lhe desejarem muitos mais anos de êxitos ao serviço do saber, da cultura, do progresso e da paz entre os povos e as nações.

Longa vida à Universidade Ryutsu Keizai.

Sempre as universidades se caracterizaram pela universalidade do saber e pela curiosidade em conhecer as descobertas científicas que se realizam em todo o mundo, para lá de todas as fronteiras e de todas as culturas. É por isso que o intercâmbio académico é vital e essencial à própria ideia de universidade.

Uma universidade fechada em si mesma é um absurdo, pois que a sua vida depende do saber que como o ar tem continuamente de circular e renovar-se.

O saber e a ciência são bens o que, seguindo a máxima de São Tomás de Aquino, grande mestre da Universidade de Paris no século XIII, “bonum diffusivum sui”, significa que está na sua natureza serem difundidos, partilhados por todos os outros que os desejem.

O momento que vivemos de celebração e de alegria pelo 50º aniversário da Universidade Ryutsu Keizai é também “diffusivum sui”, pois que convidou as universidades estrangeiras presentes a virem de longe para viver e festejar este marco da sua história.

Muito obrigado pelo vosso convite e pela hospitalidade com que nos recebeis neste maravilhoso país.

O convite à alegria e à festa com que o se inicia o hino académico “Gaudeamus igitur” é feito com a consciência da brevidade da vida e da ameaça constante e dura da morte que a ninguém poupa:

Nossa vida é breve.  
Logo findará.  
A morte vem rápida,  
Arrebata-nos atrozmente  
Sem ninguém poupar.

O hino é, assim um convite a viver intensamente o momento destes festejos académicos, no sentido tão profundo do “carpe diem”.

Viva a academia!  
Vivam os professores!  
Viva cada estudante!  
Vivam todos os membros da academia!  
Estejam sempre no ápice!

Face à morte há a vida, que tem muitas formas. Mas nenhuma forma de vida tem a excelência da vida intelectual como Aristóteles ensinou à sua academia há cerca de 2400 anos. Nada há mais nobre do que recolher os melhores ensinamentos dos que viveram antes de nós, em qualquer parte do mundo, e transmiti-los às novas gerações, e, ao mesmo tempo, continuar na mesma senda de investigar os mistérios da vida e do universo, para enriquecer o património universal de saber e sabedoria que as universidades encerram.

Termino com as duas últimas estrofes do hino académico cantado em muitas universidades pelo mundo fora:

Viva a nossa sociedade!  
Vivam os estudiosos!  
Cresça a única verdade.  
Floresça a fraternidade  
E a prosperidade da Pátria.

Floresça a Alma Mater  
Que nos educou;  
E que juntou todos os que nos são caros  
E dispersos por regiões distantes  
Aqui os juntou.

Viva a Universidade Ryutsu Keizai e que sempre floresça em sabedoria, ciência, e paz.





[総合情報センター]

青砥光一 係長  
Terukazu Aoto

本学の情報システムを  
サポートしています

本学に職員として転職してきて、ちょうど3年が経過しました。現在は龍ヶ崎キャンパスの総合情報センターで情報システムの企画・構築・管理を行っています。実は前職では、情報システムを使う側でしたので、当初は戸惑いがありましたが、今は日々勉強しながら、頑張っています。

さて、本学の情報システムは近年、劇的に変化してきました。なかでも2013年には、RKU Wi-Fiという無線LANインフラの提供を開始しました。RKU Wi-Fi利用者は毎日伸び続け、端末の登録台数は本学学生数を超えています。また、2015年にはRingのリニューアル、シングルサインオン導入、Officeソフトダウンロード開始など、次々に変化してきています。

これらは、世の中の状況に沿った情報環境の提供を目指すために行っています。

今後も皆さんが安心して利用できるよう、安定的な運用を維持していきたいと考えています。



[スポーツ健康科学部]

亀山 巖 准教授  
Iwao Kameyama

心を動かし、血を巡らす。  
今こそ、汗をかこう!

新装された「RKU Today」1号の紹介から再度の掲載です。創立半世紀、またアメリカンフットボールのコーチとして勤務を始めて15年が過ぎ、その間に監督(現在は部長)、教員としての採用、所属するスポーツ健康科学部が10年目を迎え、俯瞰した統括と反省の機であります。

仮想空間や人工知能が現実となった昨今、そのデジタルな情報にあってなお、そこに人の気配感を感じ取る。手足の延長として道具を操作できるのと同様に、情報の世界でも能力(脳)が延長するということか。だからこそ主体的な実働を大切にしたい。

課外活動は、興味関心の「行(ぎょう)」。アメフットの攻撃は静止状態から全面一斉に作戦行動が展開される。全ての選手が自らの工夫で役割を完遂して一つのプレイが完成する。観るスポーツとしては「華麗なパス」「激しいコンタクト」ですが、意思ある「緻密な作戦」に気づくと魅力にはまります。



[法学部]

隅谷史人 講師  
Fumito Sumitani

「金融」って難しい?

本年度より法学部に着任しました。私の専門は「商法」、とりわけ「金融法」で、「手形法・小切手法」や「金融取引法」を担当しています。

「金融」と聞いたとき、皆さんのイメージでは、とにかく「難しそう」と感じるのではないのでしょうか。しかし金融というのは意外と身近なものなのです。「金融」とは、平たく言えば「お金の融通」のことです。例えば、欲しいものを買うために、お小遣いやバイト代を貯金しておく。これも立派な「お金の融通」です。そして、誰かからお金を融通しようとするれば、それは「金融取引」となるわけです。「お金の貸し借りはしない主義だ!」という人でも、銀行に預金していれば、それは銀行とお金の貸し借りをしていることにほかならないわけで、多くの人は日常的に「金融」ないしは「金融取引」をしていることになります。

人が生きていくうえで、お金は多かれ少なかれ必要になってきます。皆さんがそんな金融や金融法の仕組みや法的トラブルへの対処方法を学ぶ一助となることができれば幸いです。



[流通情報学部]

永岡悦子 准教授  
Etsuko Nagaoka

大学で国際感覚を磨こう

2008年に本学に着任し、今年で8年目になります。専門は日本語教育で、主に外国人留学生のための「日本語」を担当しています。今年度はリベラルアーツ入門「東アジアと日本」も担当し、日本やアジアの留学生政策や言語政策について講義をしています。8年間を振り返ると、2011年の東日本大震災を機に本学の外国人留学生が減少しているのは残念ですが、国際交流サークルの設立や、ICP<sup>®</sup>の開設による英語教育の推進によって、日本人学生・留学生の国際交流の輪が広がってきており、今後ますます大学の国際化が進むことを期待しています。

政府は2020年までに外国人留学生の受入数を30万人(現状約18万人)、日本大学生の海外留学を12万人(現状約6万人)に拡大することを目指しています。日本人、外国人を問わず、多くの若者が流通経済大学という環境を生かして国際感覚を磨き、世界に羽ばたいていけるよう、日本語教育や国際理解教育の面から貢献できればと考えています。



[社会学部]

秋山正人 教授  
Masato Akiyama

「おもてなし」を  
科学で管理する

日本では「おもてなし」という言葉がもてはやされているようです。同時にホスピタリティという概念も現代社会の中で重要性を増しています。

そのような背景の中で、数値管理できないと言われるホスピタリティやおもてなしが真の付加価値として注目されています。しかし、無償ではビジネスは成り立ちませんので、どのようにしてビジネスモデルとしてそれらを確立し持続させるかが重要になり、これがこれからの日本の発展の鍵となるでしょう。

私は国内の大学を卒業し、金融機関勤務の後にホテルに関わりたいたいという夢を実現させるべく米国に留学し、ホテル経営学を学びました。そして、その後は数値管理によるホテル経営支援業務や、新たなホテルを計画・開業させる事業部門を長く担当しました。

皆さんと共に、近代的な宿泊事業の在り方について科学的に考えていきたいと思います。



[経済学部]

秋保親成 講師  
Chikanari Akiho

自ら考え、  
行動できる人を目指して

2014年に赴任して2年目になります。専門領域は経済理論ですが、最近は持続可能な社会経済システムの構築を課題に、地域産業や教育に関する研究に取り組んでいます。

担当科目は「資本主義経済論」と「現代経済入門」で、授業では受講者が主体的に考えられるよう、例えば少子高齢化や就職難など身近な話題を取り上げながら、その都度学生に意見を求めるようにしています。またゼミナールでは、日本経済に関するグループワークを主に行っています。学生主体の活動では、やはり学生自身が壁にあたる場面も多くなりますが、いずれの場合もこちらが一方的に答えを与えるのではなく、学生が自分なりの答えを見つけだせるようになることを第一に運営しています。

社会に出ると、答えが見つからないような難問にたくさん出会います。学生のみなさんには大学で過ごす貴重な時間のなかで、自ら考え、行動する力をぜひ身につけてもらいたいと思います。

※ICP:インターナショナル・コミュニティ・プラザ。「RKU Today」vol.29で紹介。

異文化を知る上では、  
周りの情報を過信せず  
自分自身の目で見て  
多面的に捉えた判断を。

—— 本田さんは、本学社会学部  
を2002年に卒業されたとい  
うことですが、本学に入学さ  
れたきっかけは。

私は写真が趣味でして、いろい  
ろな場所に旅行に行つて写真を  
撮ることが多かったのですが、そ  
の関係で「観光」に興味を持ち、  
専門的に勉強したいと実家の新  
潟から受験を決意しました。

—— それでは、龍ヶ崎で一人暮ら  
しを始めたということですね。  
大学生活はいかがでしたか？

実家新潟にいた時は外国を意  
識することはあまりなかったの  
ですが、大学に入学して留学生と  
接し、外国の文化に大変興味を  
持つようになりました。そこで  
旅行業務取扱者の資格や地理検  
定に挑戦して外国に関する知識

大手自動車メーカーおよび流通  
小売業のパート、商品供給業務が  
中心です。

—— 中国でのお仕事は、もちろん  
中国語ということですね。

中国語が中心ですね。留学し  
ていたので日常会話は不自由がな  
かったのですが、ビジネスで使え  
るようになるには勉強が必要で  
した。そうした高度な語学力は  
仕事をしながら覚えていき、現  
在はお客様によって上海語や四川  
方言を使うこともあります。ま  
た、ニューゼalandやインドから  
のお客様に対しては英語がどう  
しても必要ですし、英語でプレゼ  
ンテーションをすることもありま  
す。言葉は身につけておくに越し  
たことはありません。言葉が通  
じれば、より深く相手に入り込  
むことができますので、学生の皆  
さんにもぜひ語学力を高めること  
に力を注いでほしいと思います。

—— 中国でのお仕事はご苦労が多  
いのではないのでしょうか？

ええ、現地では外国人です  
から。特にローカルスタッフには助  
けられています。それに私はま  
だ30代と若輩ですので、お客様や  
ベテランスタッフとの関係はとても  
大切です。ですので、背伸びを

## OB/OG訪問 立川が 聞く。

在学中に留学生との交流で外国  
の文化に興味を持ったという本田  
隆人さん。現在は30代の若さで株  
式会社上組の現地法人、上海上  
組物流有限公司の総経理(社長)  
として活躍されています。

第34期生  
(2002年3月 社会学部卒業)

本田隆人さん  
Takahito Honda

(取材)  
立川和美 (社会学部教授)



を深め、姉妹校である北京の首  
都経済貿易大学に1年間留学し  
ました。また、台湾の南台科技  
大などの大学生とシンポジウムを  
行ったのもよい経験でした。

—— それでは、大学時代はしばし  
は海外にもいらしたのですか？

実は、私の初めての海外旅行は、  
ゼミの先輩であったタニエル・ジェ  
ンガ氏(ケニア人留学生)の実家に  
お邪魔するということでした。そ  
の家というのが首都のナイロビか  
ら何時間も車で移動するような  
所で、かなりのカルチャーショック  
を受けました。また、卒業旅行  
を考えている時に中東の写真集を  
見る機会がありまして、その頃は  
フリージャーナリストに憧れていた  
こともあり、ぜひ自分の目でそう  
いう地域を見てみたいと思っ

こともありますよ。

—— 海外での社長業務を行う上  
で心がけていらっしゃることはど  
んなことですか？

第一に、海外でのビジネスの成  
功は現地スタッフとの関係がキー  
ポイントですので、中国各地を旅  
行して文化を知り、現地生活に  
溶け込むようにしています。時に  
は現地スタッフと一緒に中国の強い  
白酒(ハイチュー)を飲んだりするこ  
ともありますね(笑)。

それから、何事にも自分から  
積極的に現場に出て現地の声を  
聴くようにしています。中国はイ  
ンフラも人も文化も日本と異な  
りますので、自分自身できちん  
と確かめる現場経験値というも  
のが何よりも重要だということ  
を、身をもって感じています。

—— 中国からは、最近日本にも観光  
の方々が多くいらつしやう、いろ  
んな情報も入ってきていますが…。

「北京のスマッグ」ですとか「爆  
買い」などですね(笑)。実は5日  
前に北京におりましたが、決して  
そんなことはなかったですよ。た  
しかに、今はあらゆる情報が飛び  
交つていて便利ですが、私は、そ  
うしたメディアで報道されている  
情報はあくまでも一面に過ぎず、

—— 就職に関してはどのようにお  
考えになつていたのでしたか？

私は、現場を見て働ける仕事  
に就きたかつたんですね。そこで、  
物流関係であれば、世界中に  
物を運ぶ現場を見ることができ、  
現地の人と直接やりとりができる  
のではないかと考え、就職活動  
を行いました。現在の(株)上組では、  
自分の中国への留学経験を評価し  
ていただき、入社することになり  
ました。

—— 2005年11月に上海へ駐  
在員として赴任されたということ  
ですが。

そうですね。入社3年目で上  
海に赴任しまして、今年で駐在  
10年目になります。現在は上海  
現地法人の総経理(社長)として、  
中国国内の4営業拠点、従業員  
250人、保有車両30台のマネジ  
メント業務を行っています。日系

偏つたものであるということ  
を認識すべきだと思つています。特に  
異文化を知る上では、周りの情  
報だけを過信するのは危険です。  
自分自身の目で見て初めて、物  
事を多面的に捉えた上での判断  
ができるようになり、豊富な知  
識が身につくのではないと思  
います。

—— グローバル社会で活躍され  
ている本田さんから、最後に流経大  
生に一言お願いいたします。

私は、グローバルな人材とい  
うのは異文化を理解し受け入れる  
順応力を持っている人間だと思  
います。そのためには、世界を自  
分の足で歩き、目で見ることが大  
切です。社会人になると時間的な  
制約が多くなりますから、学生  
の間にぜひ海外に積極的に行つ  
てほしいですね。その場合も、今  
変化している発展途上のエリアに  
行つてみてください。ただ、海外  
を知るというためには、自分自身  
を知ること不可欠です。です  
から、外へ向かっていくとともに  
自分の地元や日本も知ってください。  
そうすれば「比較」が可能  
になり、それを繰り返していくこ  
とで、多くの異なる人々を理解し  
ていけるようになるかと思



付属柏高校創立30周年記念式典・祝賀会



林静男校長



流通経済大学付属柏高等学校の創立30周年記念式典・祝賀会は、昨年10月30日さわやかな秋晴れの下、付属高校内で開催されました。千葉県と柏市の首長、地元選出の国会・県議会議員、私学教育関係各団体代表者等の来賓、ほか付属高校と縁の深い400名の方々が参列して執り行われました。

◆  
式典は、二部構成で第体育館にて行われ、第一部は林静男校長の式辞・日通学園岡部正彦理事長挨拶のあと、森田健作千葉県知事（代理・中島輝夫県総務部長）

秋山浩保市長・櫻田義孝衆議院議員・河上茂千葉県私学振興議員連盟会長・福中儀明千葉県私学振興財団理事長から祝福と激励のメッセージ、父母の会からの記念品贈呈、来賓紹介などが行われました。

第二部は放送部の生徒が司会進行を行い、「流経大柏30年の歩み」を上映したあと吹奏楽部の演奏、卒業生の新体操個人演技、新体操部とチアダンス部の演技、友情応援で出演した流通経済大学新体操部とチアリーディング部の演技などを次々と披露。フィナーレは参加部員・選手全員

によるコラボ演技と演奏、拍手喝采で好評を博しました。

祝賀会は、30周年記念事業で建設した第2体育館に場所を移し、人工芝グラウンドを見下ろす2階の特設会場で行われました。主催者挨拶、野尻俊明流通経済大学学長と古賀正二私立中

学高等学校協会顧問の祝辞のあと乾杯となりました。

歓談には付属高校の教職員も加わって参加者全員和気藹藹の会場内に飾られた部活動活躍のパネルなどの話も弾み、祝賀ムードが高まる中で予定の時間を過ぎての閉会となりました。

30周年を契機に更なる発展を

本校創立30周年の節目を飾る記念式典・祝賀会が滞りなく終了できましたことはこの上ない喜びでございます。これまで、本校に対して温かいご支援を賜りました多くの皆様方に心からお礼を申し上げます。

おかげ様で、開校から30年という歳月を順調に歩んできた本校ですが、今、時代は大きく変わろうとしています。本校が50周年を迎える頃にはどのような社会になるのか想像もつきません。従って、情報化・国際化・高齢化・科学技術の発展・環境問題など新しい時代に適応できる教養と自己成長力のある生徒の育成に努める必要があると思います。

一方で、どんな時代においても不易である「心豊かで社会に柔軟に対応できる人」に育てることも大切です。本校では、学

の向上と共に学校行事や部活動、友人・教職員との交流などを通して心の成長を支援し、社会で活躍できる総合的な人間力を備えた生徒を育成する教育を実践してまいります。

そして、この30周年を契機として、過去の歴史と経験に学びつつ、流通経済大学の付属高校としての教育方針を堅持し、未来を見据えた教育を追求しながら教職員一丸となって新たな歩みを進めていく所存です。特に、日通学園・流通経済大学の関係各位におかれましては、今後とも一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

流通経済大学付属柏高等学校

校長 林静男

## 2015年度 読書コメント大賞年間大賞決定

# 3



年間  
優秀賞

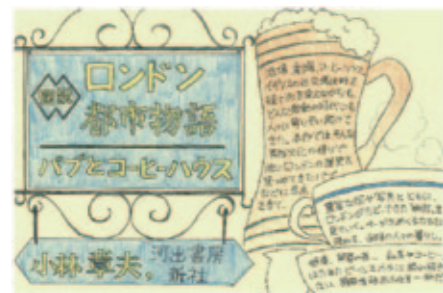
仲澤 竜也 (経営学科1年)  
「機械との競争」  
エリック・プリニョル・フンソン、  
アンドリュー・マカフィー 著  
村井章子 訳  
(日経BP社)

図書館が開催している「読書コメント大賞」の2015年度年間大賞の選考会が行われました。

2015年度の応募総数は378点でした。数ある作品の中から選ばれた年間大賞1点と年間優秀賞2点をご紹介します。

年間  
大賞

長谷川尚輝 (経営学科4年)  
「桜の森の満開の下」坂口安吾 著 (筑摩書房)



年間  
優秀賞

大槻 萌 (経済学科3年)  
「図説ロンドン都市物語：  
パパとコーヒーハウス」  
小林章夫 著 (河出書房新社)

## 流通情報学部 開設20年記念パーティー

# 1



10月12日、流通情報学部開設20年記念イベントが新松戸キャンパスにて開催されました。

開会の後、「学部20年のあゆみ」と題して、矢野裕見教授がこれまでの学部の歩みを紹介し、特別講演として苦瀬博仁教授より「我が国のロジスティクスの過去とこれから」、東京電機大学情報環境学部の宮保憲治教授より「ヒトが癒される思いやりシステムと放射線量を見える化するLED照明」と題する講演がそれぞれ行われました。

講演会の後は記念パーティーが開催され、OG・OBおよび現役の流通情報学部関係者が学部開設20年を祝いました。



## 交換留学生修了式

# 5

2月5日、仁済大学校(韓国)、海南大学(中国)、東北財経大学(中国)からの交換留学生5名の修了式が龍ヶ崎キャンパスで開催されました。

写真左端から、海南大学の翁悦悦さん、潘紫君さん、仁済大学校の李鍾主さん、東北財経大学の龔佳璐さん、姚倩さんが出席し、野尻学長より修了証書が授与されました。



【編集後記】

- 記念祝賀会の折にいただいた胡蝶蘭、実に見事な花を咲かせていたが、さすがにもう花は終り、花がらを摘まれて、花茎と支柱だけが寂しげに残っている。
- 花芽を切っておくとまた咲くよ、と聞いたことがあるが、どこから切って良いのか判らずにいると、ある先輩が「下から4節目くらいで切るんだ」と教えてくれた。植物とは程遠そうな先輩(失礼)が!という意外さから、とても深く心に刻まれた一瞬だった。
- さて独り暮らしの寂しさからか、ペット禁止の部屋で観葉植物の増殖が止らな

## クリスマスコンサート

# 4

12月、毎年開催されている吹奏楽部によるクリスマスコンサートが新松戸キャンパス講堂で開催されました。

吹奏楽コンクールの課題曲やスタンダードナンバー、クリスマスムードあふれる曲の演奏を、ご来場いただいた方に楽しんでいただきました。



い。満足に手入れもできないのだが、それでも日々の微妙な変化に気づいた時は嬉しいものだ。若かりし頃には想像できなかった楽しみ方だ。

- 構い過ぎて枯らした鉢があるかと思えば、放っておいて花が咲いた鉢もあり、植物たちはそれぞれに皆、実に個性的で、マニュアルどおりにはいかないことを思い知らされる。もちろん電子機器のようにリセットが効かないことも。人も然り。
- 性懲りも無くまた、花の終わった胡蝶蘭の鉢をいただいて帰ろうかと思う春である。

(編集子)

## 第50回つくばね祭

# 2

10月31日(土)、11月1日(日)の2日間、龍ヶ崎キャンパスにて第50回つくばね祭を開催しました。

ゼミや部活動の仲間たちで協力して出店した模擬店、演技披露など盛りだくさんの内容でした。



# 2016年度入試日程

経済学部	経済学科・経営学科
社会学部	社会学科・国際観光学科
流通情報学部	流通情報学科
法学部	ビジネス法学科・自治行政学科
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科

入試種別	期	出願期間	試験日	合格発表	試験場
一般	3科目型	Ⅱ 12/14 月 ~ 2/5 金	2/12 金	2/18 木	新松戸・龍ヶ崎・東京・大阪・ 小山・郡山・長岡
		Ⅲ 12/14 月 ~ 2/17 水	2/23 火	2/27 土	新松戸・龍ヶ崎・東京・仙台・ 高崎・静岡・水戸
	2科目型	Ⅱ 12/14 月 ~ 2/5 金	2/12 金	2/18 木	新松戸・龍ヶ崎・東京・大阪・ 小山・郡山・長岡
		Ⅲ 12/14 月 ~ 2/17 水	2/23 火	2/27 土	新松戸・龍ヶ崎・東京・仙台・ 高崎・静岡・水戸
	得意科目型 (1科目受験可)	Ⅱ 12/14 月 ~ 2/5 金	2/13 土	2/18 木	新松戸・龍ヶ崎・東京・大阪・ 小山・郡山・長岡
		Ⅲ 12/14 月 ~ 2/17 水	2/24 水	2/27 土	新松戸・龍ヶ崎・東京・仙台・ 高崎・静岡・水戸
奨学生選抜	3科目型	Ⅱ 12/14 月 ~ 2/5 金	2/12 金	2/18 木	新松戸・龍ヶ崎・東京・大阪・ 小山・郡山・長岡
		Ⅲ 12/14 月 ~ 2/17 水	2/23 火	2/27 土	新松戸・龍ヶ崎・東京・仙台・ 高崎・静岡・水戸
	大学入試 センター試験 利用型	Ⅱ 12/14 月 ~ 2/17 水	個別試験は 実施しない	2/27 土	—
		Ⅲ 12/14 月 ~ 2/26 金	個別試験は 実施しない	3/8 火	—
大学入試センター試験 利用型	3科目型、 高得点2科目型	Ⅱ 12/14 月 ~ 2/17 水	個別試験は 実施しない	2/27 土	—
		Ⅲ 12/14 月 ~ 2/26 金	個別試験は 実施しない	3/8 火	—

## 一般入試(得意科目型)とは

国語、外国語、数学、簿記・会計から、それぞれ大設問を2問ずつ(合計8問)出題。そのうち2問を自由に選択できるので、得意科目で受験できます。

科目 選択の 例	国語が得意! 簿記・会計が 得意!	得意な1科目で 受験できます。	国語①と 国語②で受験	国語①	国語②	外国語①	外国語②	数学①	数学②	簿記・ 会計①	簿記・ 会計②
	簿記・会計が 得意!		簿記・会計①と 簿記・会計②で受験	国語①	国語②	外国語①	外国語②	数学①	数学②	簿記・ 会計①	簿記・ 会計②
	数学が苦手!	数学以外の2科目 でも受験できます。	国語①と 外国語②で受験	国語①	国語②	外国語①	外国語②	数学①	数学②	簿記・ 会計①	簿記・ 会計②

流通経済大学入試センター ☎ 0120-297-141 ✉ ees@rku.ac.jp 🌐 http://www.rku.ac.jp/